

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.32



●高齢者を孤立化から守り、地域で支え合う社会を目指す

記録的な猛暑が続いた厳しい夏が終わり、ようやく秋の気配を感じる過ごしやすい季節となりました。

ここ数年、異常気象ともいえる気候変動が常態化しており、今夏は連日のように「熱中症警戒アラート」が発表され、高齢者にとっては命に関わる危険な暑さでした。

高齢者世帯は、現在でもエアコンを設置していないご家庭が非常に多くを占めており、一人暮らしの高齢者の方や老老世帯の方などの安否が心配されていたさなか、この猛暑の影響で高齢者の方が自宅内で亡くなり、数日後に発見されるという痛ましい出来事が複数件発生しました。

当市では、高齢者のみの世帯、中でも、一人暮らし高齢者の世帯が多くなっており、令和5年3月末時点で、高齢者のみの世帯は6,821世帯、市内全世帯のうち26.7%に及び、その半数以上の3,522世帯が一人暮らし高齢者世帯という状況にあります。

近年、高齢者の「孤立」や「孤独」が社会問題になっている中、高齢化率の高い地方では、必然的にこうしたリスクは高くなります。さらには、昨年8月の大雨災害のような大規模災害が発生した場合も、「孤立」は重大なリスクファクター(危険因子)になります。いわゆる「社会的孤立」状態にある高齢者等への「支援」や「サポート」は、今後の地域社会における大きな課題であり、決して見過ごすことはできないと考えています。

孤立化する要因は、社会的参加や交流の欠如、頼れる人や場所が無いなど社会的サポートの欠如などが挙げられますが、明確な対処法を見出すのは難しいのが実情です。

「孤立」や「孤独」はさまざまな問題につながるリスクがあり、行政としても孤立化リスクのある高齢者や障害者などの「実態の把握」に努めるとともに、多様な企業、団体と連携した見守り体制の強化、孤立化を防ぐための地域における「つながる仕組み」や「居場所づくり」等の方策を講じていく必要があります。しかし、最も基本となるのは、地域におけるコミュニティ活動や地域内での日頃からの「気配り」や「思いやり」、そして「支え合い」であると思います。

気候の変動に加え、急速な人口減少・少子高齢化など社会情勢が急激に変化しつつある今、将来を見据えて、安全・安心で健全な社会を確立するためには、私たち一人ひとりが地域社会を担う一員であるという意識を持つことが重要です。今こそ、寛容と連帯の精神で「だれ一人取り残さない地域社会」を市民の皆さんとともに創り上げていきたいと思っています。

●10月23日から住民懇談会がスタートします！

10月23日(月)の市浦地域を皮切りに、25日(水)は金木地域、27日(金)は五所川原地域でそれぞれ住民懇談会を開催します(9ページ掲載)。今年は、高齢社会における認知症に関するテーマをメインに懇談する予定としています。

現在、当市における認知症の方は約3,400人に上り、全国的にも2025年には高齢者の5人に1人に達すると推計されています。認知症は身近な問題として、私たち誰もが人ごとでは済まされない状況になっています。

また、認知症の方が行方不明になってしまう事案が全国で約1万8千人というデータもあり、当市において、実際に行方不明となったケースが今年だけでも数件発生し、幸い大事には至りませんでした。あと少し発見が遅ければ不幸な結果になっていたかもしれません。

こうした中、9月2日に開催された「認知症フォーラム」では、タレントの王林さんをごゲストにお招きしたこともあり、たくさんの方々にご来場いただき、多くの方に認知症に関する知識と理解を深めていただくことができました。

「人生100年時代」を迎えようとしている今、市では、認知症対策を重点施策の一つとして、鋭意取り組んでまいりますが、認知症になっても尊厳を持って安心して暮らせる社会の実現のため、市民の皆さんには、一人ひとりが当事者意識を持っていただき、思いやりを持って共に支え合う「地域共生社会」を創っていきたくと思っています。

住民懇談会では、認知症のテーマに沿った内容をはじめ、各地域で抱える問題や提言など多様なご意見をいただきながら、市民協働社会に向けて実り多い懇談会にしたいと思いますので、ご理解とご協力をお願いします。



昨年度の「住民懇談会(五所川原地域)」の様子



令和5年度「認知症フォーラム」の様子